

# 大腸癌同時肝転移症例に対する二次的肝切除術に関する研究

## 1. 研究の対象

2008年01月01日から2014年12月31日までの期間に大腸癌同時肝転移症例に対して当院で原発巣切除術を受けられた方。

## 2. 研究目的・方法

防衛医科大学校病院で大腸癌肝転移症例に対して原発巣切除術を施行した患者を対象とした後ろ向き観察研究である。大腸癌同時肝転移症例に対しては、積極的な肝切除術を行うことにより、長期生存が得られている。多くの施設では、大腸切除と同時に肝切除が行われているが、当科においては、切除可能な肝転移であっても、原発巣切除を施行したのち、数か月の経過観察もしくは化学療法施行の後に、二次的に肝切除を行うことが多い。二次的切除には、短期間で肝転移が進行した場合に根治切除の機会を逸してしまうという懸念がある一方、肝切除にて長期生存が期待できる症例を選択する効果が期待される。当科における過去の大腸がん同時肝転移症例の治療成績を後ろ向きに解析し、二次的肝切除の妥当性について評価する。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

人体試料は用いず、保有している既存情報のみを用いる。カルテ番号、生年月日、イニシャル、原発巣切除術式、原発巣手術癌遺残の有無、手術時年齢、性別、原発巣の位置、腫瘍進行度、肝転移診断時の腫瘍個数、腫瘍最大径、原発巣術前の腫瘍マーカー値、肝以外の遠隔転移巣（肺、腹膜播種、遠隔リンパ節、骨、脳等）の有無、肝切除施行の有無、二次的切除の方針として実際に切除に至った症例の割合、肝切除術式、肝切除術癌遺残の有無、肝切除施行までの日数、肝切除前化学療法施行の有無、化学療法のレジメン、術後合併症の有無、再肝切除術の有無、肺転移切除術の有無、予後等を評価する。同時肝切除群と待機的肝切除群、肝切除群と非肝切除群の予後を評価する。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校病院 外科学講座 3 埼玉県所沢市並木 3-2

研究責任者：防衛医科大学校病院 外科学 3 講座 医学研究科 瀧端康博

電 話： TEL:04-2995-1637 FAX：04-2996-5205